巻頭特集

日本卓球株式会社 古河ボール工場

選手とともに世界の頂点を目指す

近年、日本人選手のめざましい活躍によって盛り上がりを見せる卓球界。
オリンピックや世界選手権などの華々しい舞台で、
公式試合球として使用されているピンポン球はすべてMADE IN KOGA。
世界で認められた技をもつ日本卓球株式会社（ニッタク）の魅力に迫りました。

国内で唯一、世界公認規格のピンポン球を作る古河工場

2012年に行われたロンドンオリンピック卓球女子団体では、日本卓球史上初となるオリンピック銀メダルに輝き、日本中が卓球界の快挙に歓喜しました。この記念すべき大会に採用されていたのは、ニッタク古河ボール工場で作られた公式試合球でした。

国際卓球連盟（ＩＴＴＦ）が定める国際公認規格の条件を満たす公式試合球は製造が難しく、作る側に高度な技術が要求されます。それ故、製造を行っているメーカーは世界でも数少なく、現在、日本ではニッタクのみ。その他はすべて中国やドイツで生産されています。

ニッタクが産声をあげたのは大正時代の１９２０年。当時ハーター商会という名で万年筆の製造とセルロイドを使った卓球ボールの製造を手掛けていました。第二次世界大戦後、卓球ブームが到来したのをきっかけに、１９４７年に日本卓球株式会社として、Ｎittaku（ニッタク）のオリジナルブランドを立ち上げ、卓球用品を専門とした製造・販売を行う事業を開始しました。

１９７１年に名古屋で行われた世界選手権大会では、ニッタクが製造したセルロイドボールが大会使用球に選ばれ、世界で認められた匠の技をもつニッタクとして、その名を世界に轟かせました。

２００２年には首都圏近郊の利便性に優れたこの地にニッタク古河工場を設立し、日本で唯一、国際公認規格の卓球ボールを製造できる工場として、世界水準の安心と信頼を誇り、名だたる国際大会の公式試合球を製造し続けています。

最高級品質と称されるニッタクの3スター

卓球のボールは半球同士を接着して球形にしなければいけないため、接着面に多少のゆがみが生じます。そのうち、ゆがみが極めて少ないものが3スターとして選別されます。

3スターはＩＴＴＦが定める国際公認規格の条件を満たしていることで刻印を許されますが、ニッタクはさらに厳しい自社規格を設けており、「ニッタクの3スター」は世界の中でも最高級品質と称され、ゆがみがほとんどなく、他社のボールに比べてバウンドが安定していて、イレギュラーバウンドが少ないといった声が多く聞かれます。世界で戦う選手たちからも絶大な評価を得ているといいます。

セルロイド球廃止 困難を極めたプラスチック球の開発

70年もの間、セルロイド球を製造し続け、世界のニッタクと呼ばれてきた高い技術に、大きな壁が立ちふさがったのは、２０１４年のセルロイド球の廃止を告げるＩＴＴＦからの通達でした。安全性などの理由から、それまで使用されていたセルロイド球を全面的に廃止し、非セルロイド素材のプラスチック球に使用球を移行することを決定したのです。

▲ニッタク 古河工場長 髙田 道明さん

セルロイドを使わずにボールを作る開発は困難を極めたといいます。それまで築きあげてきた信頼と実績の技術を全く別のものに変えなければいけないというのは、未知の領域だったそうです。古河工場長の髙田道明さんは「素材の選定から作り方の見直し、毎日どうすればできるかを考え、たくさんの時間とお金を費やしました。テストをしながら量産して、不良品の中から良品を少しずつとって調べながら試行錯誤を繰り返しました。プラスチック球の開発は本当に大変でした」と当時を振り返ります。同じくプラスチック球の開発に携わった細野誠さんは、「セルロイド球の作り方とは全く違うので、今までやったことのないことにチャレンジしなければならなかったことは本当に大変でした。開発に2年を費やしましたが、できあがったときの感慨はひとしおでした」と語りました。

▲ニッタク 古河工場 細野 誠さん

こうして打球感や性能ともに以前使用していたセルロイド球とほぼ変わらず、熟練の技術を駆使した『ニッタクのプラ3スター』を完成させたニッタクは、２０１４年以降も国際大会の公式使用球として認定され、その技術に世界から賞賛の声が寄せられました。

本来の力を最大限に 選手とともに世界の頂を目指す

4月末からスウェーデンで行われる世界卓球選手権では、日本人選手の活躍に期待が高まります。そんな選手たちを陰から支えるニッタクの商品は、選手たちがもつ、本来の力を最大限に発揮できるようにとの願いを込めて、ひとつひとつ丁寧に作りあげられています。

作り手の愛情と真心がこもったニッタクの商品は、これからも卓球を愛する人々の心に寄り添い、日の丸を背負う選手たちとともに世界の頂を目指して、ともに戦い続けていくことでしょう。

工場での環境対策

地域の環境を守るため、工場での節水など環境負荷低減に努めています。
ピンポン球を研磨する時に出た排水をろ過して、キレイな水に戻し、また研磨する時に使用しています。

文・写真／有限会社あからん

ピンポン球ができるまで

1. 【射出成型】
プラスチックから球形に成型する

2. 【研磨・洗浄】
研磨石を入れて表面を磨き、既定の重量になるよう削る

3. 【重量選別】
重さを量り、既定の重量か否かを振り分ける

4. 【検査】
球のゆがみの状態や重量、バランスなどを検査する

5. 【印刷】
あらゆる検査に合格したものは三ツ星のマークが印字される

6. 【製品化】
ピンポン球が箱詰めされ、商品となる

日本卓球株式会社
本　　部 ｜ 東京都千代田区神田和泉町1-2-8
古河ボール工場 ｜ 古河市茶屋新田原山270-26
TEL.03-3862-0911